

出会う、
つながる、
広げる。



Gunma Art Support Center

令和6年度

群馬県障害者芸術文化活動支援センター **こ・い・ろ・ん** の活動

アートディレクター便り



日ごろからアート支援の現場に立ち、障害のある人たちやご家族、関係者の方々と交流する中で、いつもみなさんに伝えてきたのは「もっとチカラを抜こうよ!」ということです。

「アートをやらなくちゃ!」「アートとはこうあるべきだ!」「立派な画材を揃えなきゃ!」などと力を入れ過ぎず、目の前に鉛筆があったら「ちょっと描いてみる?」と話しかけてみる。そんな気楽さが結構大事なのです。息をするように肩の力を抜いたスタンス、それがアート支援を長く継続している施設の特徴でもあります。

こ・ふぁんの研修では「墨あそび」などアート導入の実践例を体験してもらいましたが、実は大事なことは墨で描く「やり方」や「技術」ではなく、筆を取るまでの声かけや雰囲気づくりなど、本人とのコミュニケーションであることを感じ取っていただけたでしょうか。できあがった作品の感想を話し合ったり、作品を大切に扱って展示したり。そのようなやり取りの積み重ねで、本人の表情や言動、現場の雰囲気が少しずつ変わっていくさまを私はたくさん見てきました。

それでも「正直、どうしたらいいかわからない」というのが自然な反応かもしれません。そんな時には、ぜひ私たちにお声がけください。「何を質問していいかわからないけど、とにかくやってみたい」といった相談も大歓迎。まずは一歩、踏み出してみませんか。新たな景色が開けてくるかも知れません。ゆるく気長に一緒に歩いていきましょう。

群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん
原 風香（工房あかね）



生方 佑樹／野菜マン



佐久間 博子／おーいお茶



黒澤 直啓／ワイヤーアート



小原 武／かいて、ちぎって、まるめる



柳 剛／ウサギ



門丸 和正／UNTITLED

もくじ

P3 . . . 「群馬県障害芸術文化支援センターこ・ふぁん」センターの活動内容

P4 . . . **1 地域で歩む** ー各地域事業所主体の取り組みー

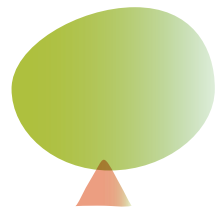
P6 . . . **2 出会い・つながる** ー異なる分野や人々との連携ー

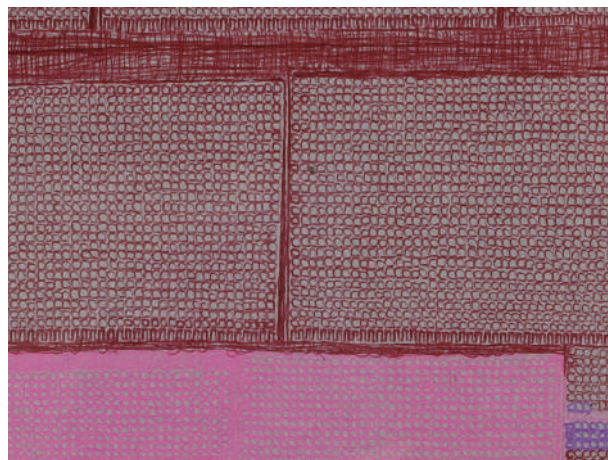
P10 . . . **3 縁をつなぐ** ーこれまでの出会いと歩み、さらなる飛躍ー

P14 . . . **4 伝え・広げる** ー新たな展示のかたちを模索ー

P18 . . . アートのムーブメント こふぁんが応援! 手をつなごう! 広げよう!

P20 . . . **5 未来への布石** ー今年度の振り返りと来年度へ向けての抱負ー





中島 涼介／無題



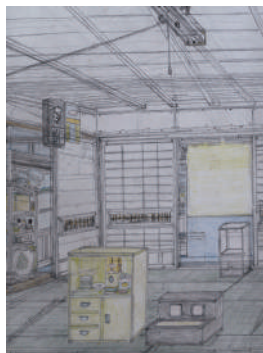
市川 和夫／ありきたりのいきものとそれにまさる近代にない「加代子さんの車」



落合 菜津子／ろうそく



野村 健太 一部職員による着色／天上天下



秦野 良夫／無題



山淵 遥翔／向日葵



市川 和夫／えんえんなるかよこさん



堤 みつき／おしゃれなキリン

こ・い・あ・ん

個：個人 個性 Fun：楽しみ
Co：共同 相互 Fan：支持者 サポーター

＊障害のある方やサポーターとともに楽しみながら芸術活動を支援していくことを表現

センターの活動内容

障害のある人が地域の人びととともに芸術や文化に触れ、活動に携わり、いきいきとした毎日を送れるよう「群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん」は令和5年4月に開設されました。

私たちは以下の5つを柱に、当事者やそのご家族、支援者、障害福祉サービス事業所等の活動を支援しています。



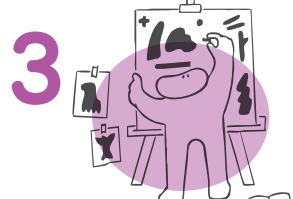
1 相談支援 Advice & Support

表現・創作するための環境づくりや作品の権利保護などについて助言・支援します



2 人材育成 Seminar & Training

セミナーの開催などを通して、人材を育てます



3 芸術文化活動に参加する機会の確保 Exhibition & Performance

アート展や発表会のマネージメント・プロデュースをします



4 情報収集と発信 Input & Output

アーティストを発掘し、作家・作品等の情報を集め、発信します



5 ネットワークの構築 Network

他業種を含め、さまざまなつながりをつくり、活動の輪を広げます

1

地域で歩む

ー各地域事業所主体の取り組みー

「こ・ふぁん」の活動軸のひとつ「人材育成事業」。初年度はおもにこ・ふぁん主導で前橋市にて開催していましたが、「もっと近隣で開催してほしい」という現場の声を受け、今年度は県内を5つに分けたブロックごとに、各地の支援団体や施設と共催でセミナーを開催しました。これはまた、県内それぞれの地域に芸術文化活動のサテライト拠点を作り、より地域性を生かした細やかなネットワークを構築していくという、長期的な目標も視野に入れての取り組みです。

今年度は利根沼田地区、西毛地区、東毛地区の3カ所で障害者アート支援初級セミナー「想像と創造するチカラを磨こう」を行いました。各地域の事業所が主体となって、地域の協力のもと、会場選定や準備などに積極的にに関わり、地域の拠点づくり、人脈づくりにもつながった意義ある事業となりました。次年度も引き続き、中央・吾妻地区で同セミナーを行う予定です。

■障害者アート支援初級セミナー

「想像と創造するチカラを磨こう」

ーアートなまなざしで本人の想いをくみとるー

令和5年度の人材育成事業を通じて聞こえてきた「障害者アートに取り組みたいが難しそう」「何をしたらよいかわからない」という意見をくみ取り、身近な画材を使ってアートを楽しむ2つのワークショップを紹介。受講者は体験を通して、支援を行う上での意識の持ち方や接し方、雰囲気づくり方や促し方などアート支援導入の基本的な姿勢を学びました。

講師 NPO法人ながのアートミーティング（長野県）関孝之氏・佐々木良太氏

対象 障がいのある人、障がいのある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、管理者



ワークショップ1

「墨あそび」。各自腕や身体にガムテープを巻き付けて動きを制限したり、足に筆を挟んだりして墨で個性的な一字を綴りました。



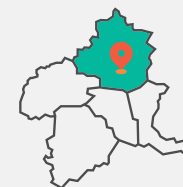
ワークショップ2

「ぐりぐりぬりぬり」。クレヨンで○や△、□を自由にたくさん描いて散りばめ、みんなで大作を完成させる過程を楽しみました。



利根沼田エリア 沼田市

日時 2024年6月4日（火）13:00～16:30
場所 沼田市 群馬県利根沼田振興局
共催 利根沼田障害者相談支援センター
協力 一般社団法人 群馬県社会就労センター協議会
参加者 38人



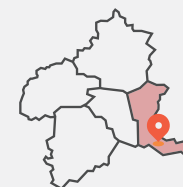
西毛エリア 安中市

日時 2024年7月29日（月）13:00～17:00
場所 安中市 あんなかスマイルパーク
共催 社会福祉法人 光の里
協力 一般社団法人 群馬県社会就労センター協議会
参加者 35人



東毛エリア 太田市

日時 2025年1月10日（月）13:00～16:30
場所 太田市 くんまこどもの国児童会館
共催 くんまこどもの国児童会館
協力 一般社団法人 群馬県社会就労センター協議会
参加者 26人



スタッフ自身が描くことで、当事者たちのエンジンが掛かりやすい。スタッフという立ち位置だけではなく、自分自身も楽しむことが大事。「気持ちよい時間ってなんだろう」という思いを大切にやってみよう。

講師
佐々木良太氏



「アートは苦手、難しい」という意識が指導者の側にある。「こうあるべき」という既成概念をまず取り払って。障害のある人の表現はうらやましい限りに自由。いとも簡単に私たちの概念を乗り越えます。もっとうらやましがって。

講師
関孝之氏



セミナー受講者の声

「アートって難しいと思っていたが、これなら気軽にできそう」

「○や線を描くだけで楽しかった。自分たちも楽しんでやればいいんだと改めて感じた」

2 出合い つながる

— 異なる分野や人々との連携 —

「こ・ふぁん」発足以前より、群馬県での障害者芸術文化活動は活発で、他県や異業種との地道な交流や活動を通じて人のつながりを大事に歩んできた歴史があります。今年度はその範囲をさらに広げ、民間企業や教育・文化団体などさまざまな分野と手を携え、多彩な事業を展開し、作品発表の機会創出、アート活動に参加する機会提供、展示会等で注目された作品や作家の調査につなげることができました。

SUBARU 赤城ふれあいの森 ペイントワークショップ & ドラムサークル



群馬の豊かな森で育った木から生まれた大きなキャンパスにペイント。イベント後は、県内の福祉事業所に寄付されます。名付けて「旅するキャンパス」。今後、旅を終えた後の活用例をレポートしていきます。



開催日時 2024年9月14日(土)～9月15日(日)
会場 SUBARUふれあいの森赤城
参加人数 ワークショップ 250人
共催 株式会社SUBARU
協力 群馬県森林組合連合会／東群運送株式会社
チハヤ会／前橋あそか会 光明園／麦わら屋

大きな木板をキャンパスに、ローラーやハケで思い切りペインティングを楽しむワークショップ。障害のあるなしに関係なく、ともに手を取り合い、ひとつの作品を仕上げていく過程を楽しみました。

また、間伐材を利用したコースターづくりや、ドラムを思い思いに叩いてリズムと共鳴を楽しむドラムサークルワークショップも開催。地域を代表する企業と連携し、ファミリー層に人気の公園で催すことによって、より多くの人たちとアートの楽しさを共有することができました。



街なかアート展



訪れた人たちは作家たちが集中して作品を仕上げる姿に見入ったり、目の前で描かれた作品を贈られて喜びの声を上げたり。コミュニケーションを楽しみました。

開催日時 2024年12月10日(火)～12月25日(水)
会場 スターバックスコーヒー
高崎大八本店…工房あかねアトリエ ART・ON
前橋敷島店…麦わら屋
前橋六供店…ウーリー前橋
参加人数 作家20人
協力 スターバックスコーヒージャパン

県内のスターバックスコーヒー3店舗の協力により、店内での作品展示を行いました。

アート支援に取り組んでいる3事業所が各地域のスターバックスコーヒーと連携し、店舗カウンターに絵画やアート・オブジェクトを展示。実演や作家との交流会も行い、地域のコーヒーショップがアートやアーティストとの出合いの場となり、自由な表現が広がる機会となりました。



店内には作家へのメッセージコーナーが設けられ、「色使いが鮮やかで元気が出ます」「個性あふれる作品ばかりで心がほっこりしました。作品を作った方にお会いしたくなりました」などの声が多数寄せられていました。

たちどまって見る展



開催日時 2024年8月1日(木)～8月31日(土)
会場 群馬大学医学部附属病院1階
共催 群馬大学医学部附属病院
協力はるな郷アシスト前橋／前橋あそか会 光明園
赤城会グループホームかわせみ／工房あかね

地域に根差した病院の廊下に、手づくりの小さな芸術文化空間をつくりました。個性あふれる作品の数々に、子どもから高齢者までさまざまな人たちがふと立ち止まって見入っていました。

いま、アートのチカラが多岐にわたる分野で注目されています。医療機関と連携することによって、アートがケアの一助となったり、あらゆる人と人をつなぐきっかけとなったりと、今後多様に可能性が広がっていく展示となったのではないのでしょうか。



自由に豊かに彩られた作品たちが、心に小さな灯りを照らします。



JR水上駅で ペイントワーク ショップ& ドラムサークル



ドラムを思い思いに叩いてリズムと共鳴を楽しむドラムサークルワークショップも開催。

開催日時 2024年10月19日(土)～10月20日(日)
会場 JR水上駅 SL 転車台広場
参加人数 150人
共催 東日本旅客鉄道株式会社高崎支社
協力 群馬県森林組合連合会

前年度にJR桐生駅で催したペイントワークショップがご縁で、今年度はJR水上駅での開催が実現しました。北毛地域の人だけでなく、全国から観光客など無数の人が訪れる駅で、今回もたくさんの出会いがありました。20日にはドラムサークルほかボッチャや貼り絵アート体験も開催。楽しい体験を通してアートがより身近に感じてもらえるよう、今後も多彩なワークショップを続けていきます。



樹々のこえ森のカタチ



3美術館の学芸員が作品を選定し、コメントを添えた展示が話題になりました。



開催日時 2025年1月24日(金)～2月21日(金)
会場 株式会社ヤマト本社1階ギャラリーホール
参加人数 作家9人
主催 株式会社ヤマト、ぐんまインクルーシブアート
環境創造プロジェクト実行委員会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

アートを通じて誰も排除されることのない社会を目指す「ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会」。その一員であるこ・ふぁんと協働によって、展示会が実現しました。県内の3美術館(県立近代美術館、県立館林美術館、アーツ前橋)とも手を携え、「福祉」だけでなく「芸術文化」のまなざしを注ぐことで、今後の活動の視野や可能性を広げた有意義な展示となり、さまざまな分野から評価を得ました。(関連記事:P15)



ARTS&CAFE アーツ&カフェ



開催日時 2024年11月16日(土)～12月1日(日)
会場 群馬県庁32階 YAMATOYA COFFEE 32
共催 株式会社大和屋 NPO法人工房あかね
協賛 はるな郷アシスト前橋/前橋あそか 光明園
チハヤ会/かんな会かんなの里すずかけ
赤城会グループホームかわせみ
フィロスあけぼの/チャイルドホープ上小鳥
なかんじょアートミーティング
藤岡市児童デイサービスふらっと/あめんぼ
麦わら屋

「アートとカフェは相性がよい!」を合言葉に、昨年度から始まったアートとカフェのコラボレーション。大和屋の協力によって独自のブレンド・コーヒー「こ・ふぁんブレンド」が誕生し、県庁32階のカフェ「YAMATOYA COFFEE 32」にて期間限定で提供されました。

カフェには絵画やオブジェクト作品を展示し、多くの人が集まる県庁32階がアートとの出会いの場になりました。訪れた人たちは「こういう空間にアートがあるっていいね」と作品を眺めながら、心豊かな空間と時間を楽しんでいます。



カップには、参加施設のアーティストによる作品を活用したスリーブが添えられました。



ワークショップも開催。「作家の方とお絵かきできて楽しかった」と参加した親子。



多くの人が行き交う県庁32階のホールには大作を展示。ここから多くの縁が生まれています。



3 縁をつなぐ

— これまでの出会いと歩み、さらなる飛躍 —

こ・ふぁんは「NPO 法人工房あかね」「NPO 法人あめんぼ」「一般社団法人あったらいいなをカタチに」の3団体で運営する、全国でも珍しい体制を敷いています。支援センターを立ち上げる前からともに歩み続け、つながってきたご縁が自然とこのかたちへと結実しました。

たゆみない歩みが「こ・ふぁん」として新たにスタートを切って1年、さらに縁をつないで、活動の幅を広げていく段階へと進み始めましたが、今年度の事業のひとつ「DELICATO (デリカート)」展は、その姿勢を如実に表したものとなりました。

DELICATO (デリカート) とは？

かねてから結びつきを強めてきた群馬県と栃木県のアーティストによる合同作品展。2013年、当時いち早く障害者芸術に取り組んでいた足利のルンビニー園と高崎市の工房あかねが手を携え、足利市立美術館で開催した「アーカーシャ」展が始まりです。アーカーシャとは「発光」「きらめき」「あまねく広がる空間」を意味します。

地道な活動をつねに新たな仲間が増え、時代の変遷によって社会のまなざしが変わる中、多様なつながりと広がりを見せた活動は「デリカート (DELICATO)」に進化し、今後も人と人をつないで、アートと表現を広める役目を果たしていきます。

DELICATO とは「繊細に」「優美に」という音楽用語。繊細で研ぎ澄まされた感性が奏でる芸術に触れてみてほしいという思いが込められています。

DELICATO 2024 展

日 時 2024年9月20日(金)～10月14日(月)
の間の金曜から日曜、祝日

会 場 みどり市童謡ふるさと館

主 催 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん
群馬県/みどり市童謡ふるさと館

共 催 もうひとつの美術館
とちぎアートサポートセンターTAM

企画運営 はるな郷アシスト前橋/チャイルドホープ上小島
ルンビニー園/工房あかね/あめんぼ/かしま荘
チハヤ会/マ・メゾン光星/すかい寮/麦わら屋
前橋あそか会光明園

協 力 竹炭の家

群馬・栃木両県から9つの福祉施設が参加。エントランスホールやカフェスペースには、利用者や個人アーティストらが手がけた絵画や造形作品など約60点を展示しました。

会期中には別会場でアート活動支援人材研修(P.13参照)を行ったほか、研修に連動した額装ワークショップ(P.12参照)、パネルディスカッション(P.12参照)、体験型楽器演奏ワークショップ「ドラムサークル」、クラシックコンサート、舞踏公演、福祉事業所等によるマルシェなど、多彩なイベントも開催。これまでのご縁でつながった人々の思いやチカラを結集したプログラムとなりました。また、参加した各団体や施設はこの交流や協力を通してお互いに刺激を受け、今後の支援の方向性を模索する上でも大きな収穫となったのではないのでしょうか。



国際的に活躍する舞踏家・ひびきみかさんによるパフォーマンス



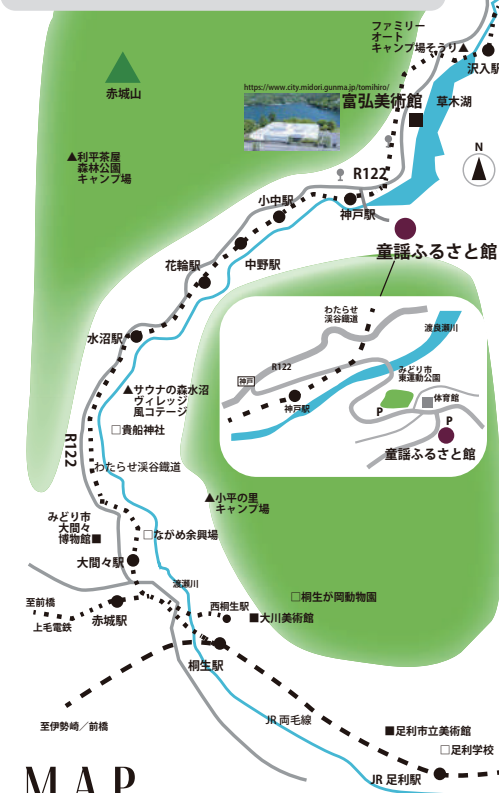
チェロ演奏家 須田千香良氏によるコンサート



くれよんアンサンブルコンサート



会場は、みどり市の童謡ふるさと館。栃木と群馬をつなぐ渡良瀬川のほとり、両県の人々の結びつきの象徴ともいうべき場です。アートの楽しさ、表現するよろこびを発信していきます。



DELICATO EVENT 1 パネルディスカッション

マジメに間違ってる？

日 時 2024年10月13日（日）
会 場 みどり市童謡ふるさと館
参 加 者 29人
パネリスト 梶原 紀子（もうひとつの美術館館長）
佐藤謙太郎（マ・メゾン光星 生活支援員）
中村 寿生（文星芸術大学准教授）
人見 将（写真家中之条ピエンナール実行委員）
小柏 桂子（工房あかね代表）
篠崎 孝司（ルンビニー園 アートディレクター）

デリカートのルーツとなった「アーカーシャ」の時代から交流や協働を続けてきた人々が集まり、パネルディスカッションを行いました。長年のアート活動や活動支援を通してそれぞれの立場から問題点や課題を出し合い、時代や文化の変遷とともに変化してきた世間の認識を踏まえて、支援の姿勢などについて語り合いました。

アートディレクターの篠崎孝司氏は「障害者アートみたいなものがブームになっているけれど、（世間は）商売、デザインと勘違いして動いているところがある。描いたものをお金に換えていく行為はデザイン。一方、アートというのは経済とつながらないもので、生きている証。行為がアート。アートはいのちなんです。原点が違います」と話し、皆深く頷いていました。



聴講者の感想

福祉施設でアート支援を始めたばかりなのですが、何かヒントを得たくて来場しました。長くアート支援をされている人の言葉には重みがありました。



DELICATO EVENT 3 アート活動支援人材研修 額装ワークショップ

アート作品を額装してみよう

日 時 2024年9月21日（土）
場 所 みどり市童謡ふるさと館
参 加 者 20人
講 師 もうひとつの美術館学芸員 とちぎアートサポートセンター TAM 五味渕に美氏

9月20日に行われたアート活動支援人材研修「思った、感じた、考えた」の講義内容を受け、額装の実践を学ぶワークショップをデリカート展の会場で行いました。

もうひとつの美術館（栃木県）で使用しているさまざまな額縁を用いて、参加者それぞれが持ち寄った絵画などを実際に額装しました。作業の過程で講師の五味渕氏は、作品を保護しつつ魅力をより引き立たせるための細やかな配慮や工夫を披露。参加者は作品とのバランスを見ながら相応しい額を選び、試行錯誤しながら完成させ、パネルに展示するまでを学び、「きちんと額装したら作品がより魅力的になった」と喜びの声を上げていました。

参加者の声

プロの技術を間近で見られてよかったです。見えないところへの心配りがより一層作品を際立たせることに気づけました。



DELICATO EVENT 2 アート活動支援人材研修

思った、感じた、考えた ー障害者アート作品展とその世界ー

日 時 2024年9月20日（金）
場 所 群馬県生涯学習センター
共 催 群馬県生涯学習センター／もうひとつの美術館
とちぎアートサポートセンター TAM
協 力 みどり市童謡ふるさと館／群馬県社会就労センター協議会
参 加 者 20人
講 師 もうひとつの美術館 館長 梶原紀子氏
もうひとつの美術館 学芸員／とちぎアートサポートセンター TAM 五味渕に美氏
工房あかね 原風香氏

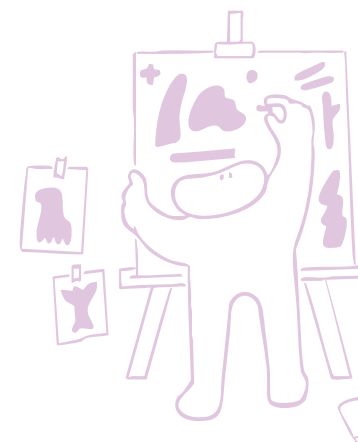
作品の選考基準についてはいろいろな尺度があると思いますが、自分の表現ができているか、自発的に表現しているかという視点を私たちは大切にしています。作家の思いや物語が伝わるよう、作品の持っているチカラを最大限生かせるように額装や展示方法を工夫しています。

講師
梶原氏

作品をどう見せたいか、どうしたら輝くかを考え、作品とじっくり向き合いながら額を選んで。

講師
五味渕氏

支援する側はどうしても気負いや焦りが出てしまうが、ぜひゆっくりと支援活動を進めてほしい。まずは利用者が楽しいと思えるよう、肯定し、精神的な安定も大切に。

講師
原氏

4 伝え 広げる

— 新たな展示のかたちを模索 —

「こ・ふぁん」が生まれる以前から、福祉の枠を超えて文化、芸術、教育、経済、地域行政などあらゆる分野と協働してきましたが、こ・ふぁんの活動が少しずつ広まるにつれてつながりが多様化し、多くの人の協力ののもと、新たなかたちの展示も実現できた一年でした。その刺激は個人や団体にも伝播し、それぞれの新たな活動にも発展しています。

単なる作品の展示にとどまらず、展示によって本人だけでなく家族やサポートする人の視界が開け、生活環境や社会が少しずつ変化していく、人と人がつながって可能性が広がっていく。展示に秘められた大きな意味や意義を投げかけながら、これからもさまざまなかたちを模索していきます。

「みる」「きく」「さわる」感じるアート展

開催日時 2025年1月24日（金）～3月23日（日）



アートを通じて誰も排除されることのない社会を目指す「ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会」。県内の美術館や教育機関、地元企業などで構成され、こ・ふぁんもその一員としてこれまで講演会やワークショップ等に携わってきました。

今年度は実行委員会各メンバーが総力を挙げて連携、約2カ月間にわたって美術館やギャラリーなどで展覧会や講演会、ワークショップなどを次々と開催。「感覚」や「体験」からアプローチするさまざまな試みが評価され、社会通念に一石を投げ、アートへの認識を深めた一大プロジェクトになりました。

樹々のこえ・森のカタチ

開催日時 2025年1月24日（金）～2月21日（金）
会場 株式会社ヤマト本社 1階ギャラリーホール
参加人数 作家9人
主催 株式会社ヤマト
ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん



秀でた美術作品を世に伝えてきたヤマト本社ギャラリーに、並ぶ作品の数々。観る人にも作家本人にも大きな刺激となった展示でした。

群馬県内で長期にわたって表現活動を続けている作家9人の作品が、株式会社ヤマト本社のギャラリーに展示されました。作家は「こ・ふぁん」が選出、県内3美術館（県立近代美術館、県立館林美術館、アーツ前橋）の学芸員がそれぞれの作品にコメントを寄せました。芸術文化のまなざしを添えた展示の手法、作品の芸術性やオリジナリティが話題になり、のべ約400人が来場しました（関連記事P8）。会期中には2つの座談会が開催され、作家が自ら展示作品を語る時間も設けられました。

来場者の声

ひとつひとつの作品の繊細さ、色使いの美しさに息を吞みました。自由な表現に触れて、こちらも元気をもらったような気がします。

ギャラリートーク1 こ・ふぁん関係者による座談会
かべをなくし、広がる世界

日時 2025年1月25日（土）
場所 株式会社ヤマト本社 1階ギャラリーホール
参加者 工房あかね 小柏桂子、原風香
あつたらしいなをカタチに 多胡宏
あめんぼ 吉田征雄
メノキ 福西俊宏（進行）

吉田氏

社会の捉え方はだんだんと変化しつつあるが、アート活動を余暇活動と捉える人もまだまだ多く「遊んでいたら稼げない」と言われてしまう。経済的価値はひとつの指標であって、彼らにとって表現することは生きること。そこに近づけるように支援していきたい。

福西氏

「福祉」の文脈で展示すると、「みんなの作品をみんな展示」となるが、「文化」の文脈では、心に残るものを展示する。専門家に見てもらって心に残るものを展示したのは画期的。



ギャラリートーク2 作家と支援者による座談会
つくるよろこび・ささえるよろこび

日時 2025年2月1日（土）
場所 株式会社ヤマト本社 1階ギャラリーホール
参加者 作家 鈴木雅史、作家 安原巧真
作家 森藤政明、作家 金井秀美（yume06）
もうひとつの美術館館長 梶原紀子
中之条ビエンナーレ実行委員・写真家 人見将
工房あかね 朝岡研（進行）

今回の展示に選ばれた2人の作家が作品の前に解説。自身の内から湧き出てくる言葉をひとつひとつ紡ぐように説明しました。

人見氏

作家による展示作品説明は、制作の深みを感じることができた貴重な機会だった。作家の語り口の独特の間から、作品への向き合い方、絵を描いている時間を想像できた。ひとつひとつ丁寧に見つめているんだなという気がした。



表現とわたしたち

開催日時 2025年2月18日(火)～2月28日(金)
会場 群馬県社会福祉総合センター 1階ロビー
参加人数 作家9人
主催 群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん／群馬県



来訪した人たちがふと立ち止まり、作品に見入っていました。

こ・ふぁんが誕生したのは、2023年4月。これまでの歩みを振り返り、現在の活動を紹介するパネル展示を行いました。同時に、こ・ふぁん開設以降本格的にアート活動を始めた福祉サービス事業所の取り組みや今後の展望などを紹介し、活動を通して生まれた作品を披露しました。

来場者の声

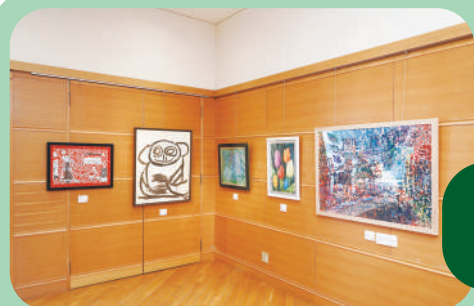
活動を初めて知りましたが、自分には到底まねのできない表現はとても良い刺激になりました。作品に触れる機会がもっと増えるといいですね。

みつめて、手にして、ほほえんで



開催日時 2025年2月8日(土)～2月16日(日)
会場 ノイエス朝日
主催 ノイエス朝日
共催 群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん

県内でアート活動や作品展を継続的にを行い、作品を二次利用したアート商品を積極的に販売している6事業所をこ・ふぁんがノイエス朝日に推薦、同ギャラリーにて作品展示と販売会が行われました。会期中、のべ200人ほどが来場し、商品が売切れて追加した事業所もありました。

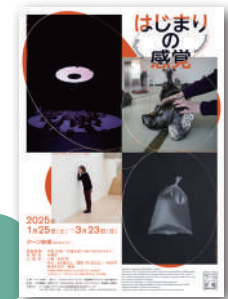


定評ある美術ギャラリーの空間で、丁寧にひとつひとつ額装された作品をゆっくり味わうひととき。展示の手法や演出で作品の放つ魅力がより一層引き立つことが伝わった機会となりました。

はじまりの感覚展

会期 2025年1月25日(土)～3月23日(日)
会場 アーツ前橋
主催 アーツ前橋
協力 くまインクルーシブアート環境創造プロジェクト
実行委員会、みずわ工業株式会社、無印良品
前橋中央通り商店街

多様な「感覚」を通して芸術を鑑賞する「体験」に焦点を当てた企画展。ほかに演奏会「音をみる」、おしゃべりアートデイズなどを開催。



ふれるほとけ展

会期 2025年3月3日(月)～3月21日(金)
会場 株式会社ヤマト本社 1階ギャラリーホール

異なる分野の表現者が、手触りや音、匂い、行為などを通して「ほとけ」にふれる作品展。



広げる・広がる 関連イベント

- さわっておしゃべりアートデイズ
- みんなとつながる上毛かるた体験会
- 県立近代美術館のアートまつり



いつもをカタチに展

開催日時 2024年12月4日(水)～9日(月)
会場 渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館
参加人数 440人
主催 群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん／群馬県
共催 渋川市／NPO法人渋川広域障害保健福祉事業者協議会

渋川広域(渋川市、榛東村、吉岡町)、吾妻地区、利根沼田地区在住の障害のある人を対象に、こ・ふぁん設立以来初めての公募展を行いました。参加人数440人、作品点数は61点にのぼり、公募を通して地域の芸術文化活動を伺い知る機会となり、今後の活動・支援の活性化につながっていくことが期待されます。



会場には、ダウン症の天才書家・金澤翔子氏がこ・ふぁん開設記念シンポジウム(2023年8月19日)で揮毫した書も展示されました。



こ・ふぁんが応援！手をつなごう！広げよう！ アートのムーブメント

こ・ふぁんが協力支援などで携わったアート文化活動や、PR活動の一環として参加したイベントを紹介します。

これからも幅広い分野と手をつないで、みなさんが作品を発表する機会を増やし、音楽や舞台芸術などアート活動に参加できる場をつくっていきます。

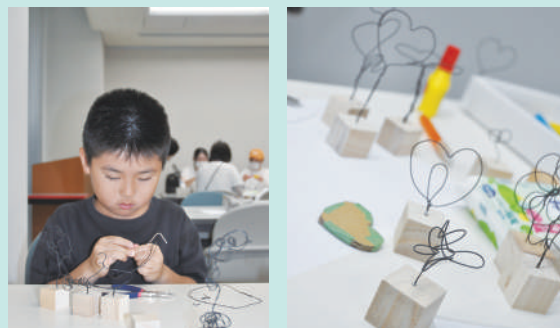
アール・ブリュット トミオカ 2024

日時 2024年10月19日(土)～24日(木)
場所 富岡市立美術館
主催 富岡地域自立支援協議会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん



2014年から続く、富岡地域の障害のある人の文化・芸術作品展。特殊な形状を含む大小215点もの作品の展示方法について、主催者から相談がありました。

そこでアートディレクターが主催団体事務局の「地域活動支援センターみのり」を訪ね、個々の額装や展示について検討するワークショップを行いました。また、展覧会前日の設営にも現場へ赴き、会場での展示の位置や配置、ライティング作業を補助、当日は来訪者向けのワークショップにアドバイザーとして支援しました。



ワイヤーでメモクリップを作るワークショップ。子どもたちは自由に発想を広げて、思い思いの形を夢中で作って楽しんでいました。



事前のワークショップ(左)で展示方法に苦心した大作。会場では子どもたちに好評でした(右)。

展示会事務局スタッフの声

今まで感覚だけに頼って展示しがちでしたが、作品がより光る額装の方法や、観る側にとって見やすい位置や配置を助言していただき、本当によい展示になりました。ワークショップでは「自由な発想も取り入れた方が面白い」とヒントをいただき、「これぞアート」という体験を楽しんでももらえました。

フィロスあけぼの工賃向上コンサルタント派遣事業

日時 2024年9月5日(木)～2025年1月17日(金)全7回
場所 フィロスあけぼの
主催 群馬県社会就労センター協議会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん



事業所のいたるところに作品を展示するなど「利用者と職員と一緒にアートを楽しむ雰囲気が素晴らしい」とアートディレクター。

群馬県の工賃向上コンサルタント派遣事業の一環。アート活動に力を入れている安中市の「フィロスあけぼの」を「こ・ふぁん」のアートディレクターが訪問、全6回にわたってワークショップやアート支援を行いました。



一人ひとりの個性に合わせて、描き方や画材などを提案。「こんなに描けるとは思わなかった！」と喜びの声が上がりました。

温泉郷クラフトシアター 2024

日時 2024年7月20日(土)～28日(日)
場所 四万温泉郷
主催 四万温泉協会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

20組を超えるクラフト作家やアーティストが四万温泉に集い、各所にてさまざまな手仕事を体験できる参加型イベント。シルクスクリーンのワークショップや作品展示を行いました。



シルクスクリーン技法を用いてトートバックやTシャツを染めました。

第34回群馬ナイスハートフェア

日時 2024年9月10日(火)～9月12日(木)
場所 県庁1階県民ホール
主催 公益社団法人 群馬県知的障害者福祉協会

県内施設で製作された陶芸品や絵画、木工、布製品などの手工芸品の展示・販売。

新春コンサート・みんなのアート展

日時 2025年1月19日(日)～2月9日(日)
場所 吉岡町文化センター
主催 吉岡町社会福祉協議会
協力 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

音楽や踊り、アート作品を楽しむ交流イベント。昨年に引き続き、PR活動を行いました。

新たな動きも始まっています

インクルーシブアート体験会

日時 2024年9月29日(日)
場所 スマーク伊勢崎
主催 あめんぼ
後援 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん／群馬県

インクルーシブな映画上映会ほかドラマサークル・ワークショップやミュージカルを通じたアート体験と交流。

インクルーシブアート はじまりの創造

日時 2025年3月20日(木)～3月25日(火)
場所 ララパークスエヒロ、高崎市中央公民館
主催 エコール・ド・アカネ

福祉の枠を超えて異業種が提携し、団体を結成。第一回目となる展覧会とワークショップを開催。

5

未来への布石

ー今年度の振り返りと来年度へ向けての抱負ー

Advice & Support

令和6年度相談実績 令和6年4月～令和7年3月 24件

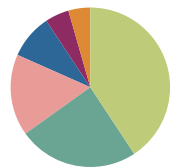
1年を振り返って

アートへの関心の高まりを実感

支援センター発足当初はセンターの役割についての問い合わせが多かったものの、今年度は作品の発表機会に関する相談など、具体的な内容が大半を占めたことが大きな特徴でした。これは、地道な広報活動の積み重ねによってセンターの認識が高まりつつあることを物語っていますが、同時に、現場でのアートの機運が高まっていることの現れでもあるでしょう。実際にこ・ふぁん開設以降、本格的にアート活動を始めた福祉事業所が増え、研修には多方面から参加者が集まるようになりました。各研修やワークショップでは、上記実績件数には反映されないさまざまな質問や相談を受けました。

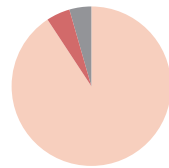
今後はこの流れがさらに広がり、深まるよう、相談の機会を増やし、個々のニーズを汲み取り、専門家や研修等へつなげる相談体制を強化するほか、アート活動における環境の整備支援、そして活動の受け皿となる発表の機会の充実に尽力していきます。

相談者の属性



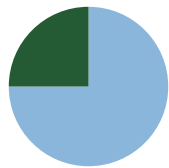
福祉事業所・福祉団体 10人
 国・自治体 6人
 作家・家族等 4人
 特別支援学校 2人
 企業・市民 1人
 その他 1人

相談内容



美術 92%
 音楽 4%
 その他（映画） 4%

相談分類



発表機会に関する相談 75%
 創作環境に関する相談 25%

あとがきに代えて

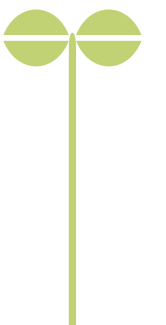
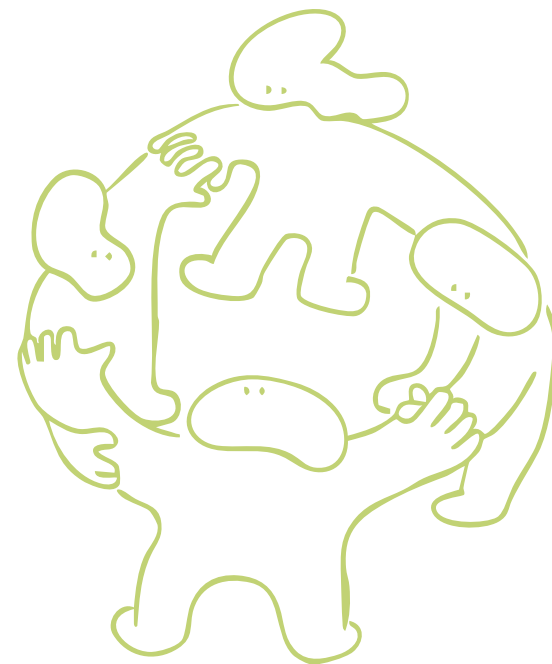
あちこちで萌え始めた
アートの芽を育てよう

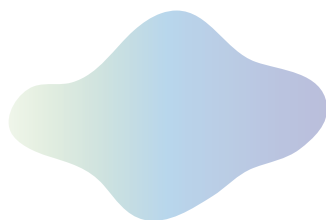
「こ・ふぁん」が発足して丸2年が経ちました。よちよち歩きだった初年度から成長した部分もあり、展示会や研修なども充実しましたが、まだまだ課題は山積です。イベント等も一過性の楽しさで終わることなく、支援の現場で地道にじっくりと向き合う人材を育て、環境を整えていくこと、そのための体制作りは急務です。

一方、交流や研修、展示等を重ねる中、「こ・ふぁん」の事業や活動からヒントを得て、各事業所や個人で独自の取り組みを始めるなど、あちこちでいろいろな芽が出始めています。この芽が育って花を咲かせ、ご本人や支援する人たちの日々を心豊かに彩るよう、今後も応援していきます。

最後になりましたが、「こ・ふぁん」の活動を支えて下さる皆様に心からお礼申し上げます。これらのムーブメントをよりよい方向へと育てられるよう、来年度もさらなるご支援・ご協力をお願いいたします。

群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん





発行日 2025年 8月1日

企画・発行 群馬県
障害者芸術文化活動
支援センター

こ・い・あ・ん



〒370-0813

群馬県高崎市本町 10-1 イチカワビル 4F[工房あかね内]

TEL/FAX 027-387-0533

受付時間：午前 10 時から午後 5 時まで（土日祝日、年末年始は除く）

URL www.gunma-artsupport.com

E-MAIL info@gunma-artsupport.com

事務局 群馬県健康福祉部障害政策課 / NPO 法人工房あかね 小柏桂子 原風香 齋藤千夏 齋藤玄志 朝岡研
協力 吉田征雄（NPO 法人あめんぼ） 鈴木隆子（一般社団法人あったらいいなをカタチに） 多胡宏

デザイン・制作 寺澤事務所・工房（寺澤由樹）

編集・執筆 加藤智美

写真 江原信明ほか